

十勝農業試験場 試験研究の概要

平成29年4月



豊かな十勝農業

をめざして

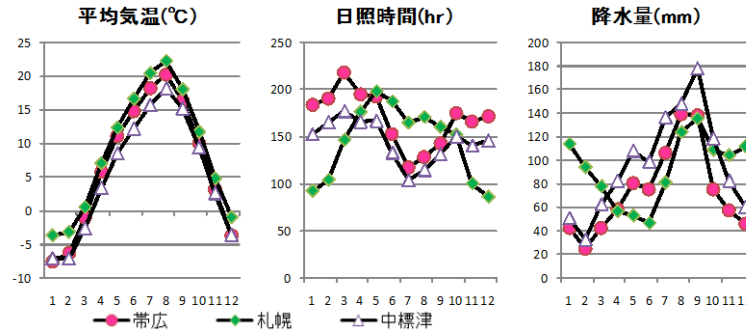


地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
十勝農業試験場

〒082-0081 北海道河西郡芽室町新生南9線2番地
Tel.0155-62-2431 Fax.0155-62-0680
tokachi-agri@hro.or.jp

<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/tokachi/index.html>

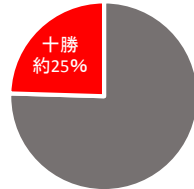
十勝の気象



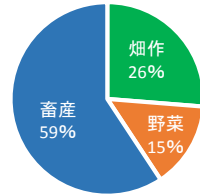
5~10月 (1980~2010)	積算気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
帯広	2,781	910	615
札幌	3,125	1,035	549
中標津	2,429	798	792

十勝の農業

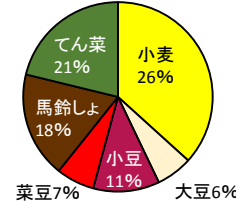
全道に占める十勝の農業産出額の割合



十勝の部門別農業産出額

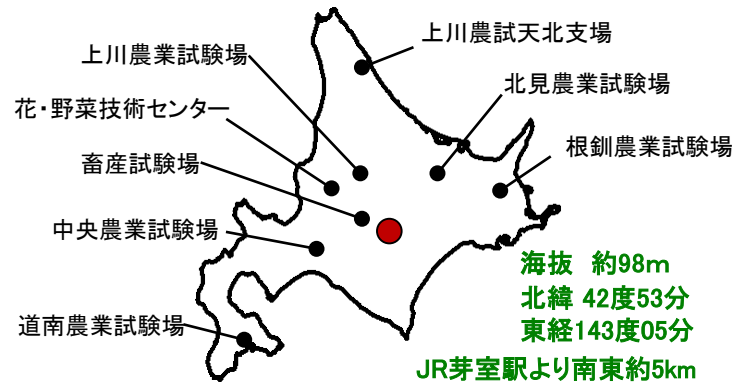


十勝の畑作物作付面積割合



(平成27年度市町村別農業算出額(農水省)、および2016十勝の農業(十勝総合振興局HP)より)

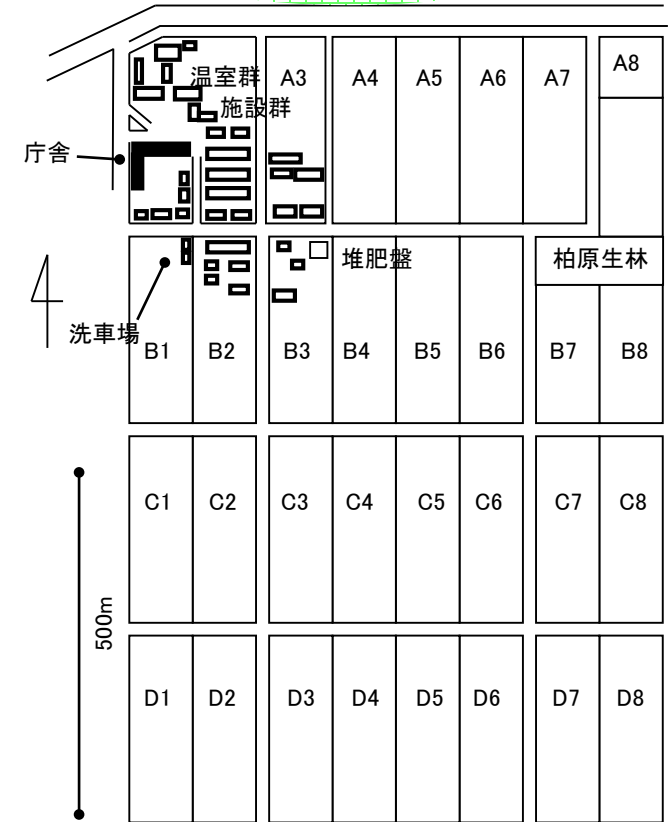
十勝農業試験場の位置



沿革

- 1894(明27)年 十勝測候所内に農作物試作圃を設置
- 1895(明28)年 十勝農事試作場を帯広村に設置(国費)
- 1960(昭35)年 帯広市から現在地(芽室町)に移転
- 1964(昭39)年 北海道立十勝農業試験場に改称
- 1986(昭61)年 庁舎増築(バイオテック実験室等)
- 1995(平 7)年 創立100周年記念式典挙行
- 2010(平22)年 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 十勝農業試験場と改称

圃場図

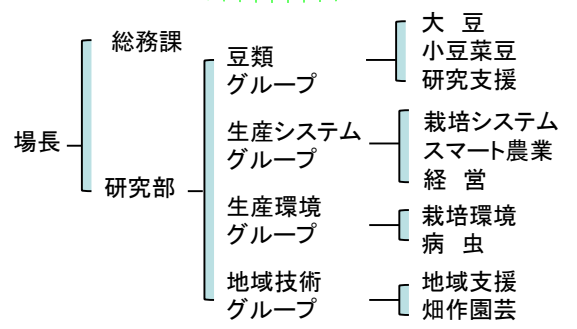


土壌 淡色黒ボク土 (乾性型火山性土) 総面積 78.01 ha
うち試験圃場 58.55 ha
建物敷地 9.52 ha
防風林ほか 9.94 ha

主な研究施設

病理昆虫実験室、バイオテック実験室、温室およびガラス室(5棟)、低温育種実験室(2棟)、短日育種実験室、てん菜糖分析室、豆類乾燥施設、馬鈴しょ催芽貯蔵施設、農業機械実験室、土壌・作物診断室、てん菜育苗施設、など

組織



職員数 42名(平成29年4月現在)
 独派職員38名(研究職 33名、技能職 4名、行政職 1名)
 道派遣職員 4名(行政職)

十勝農業試験場技術普及室(道職員3名)

主な育成品種と開発した新技術

■最近の育成品種

- 大豆「ゆきびりか」(H18)
「ユキホマレR」(H22)
「とよみづき」(H24)
- 小豆「きたあすか」(H22)
「ちはやひめ」(H28)
「十育167号」(H29)
- 菜豆「福寿金時」(H22)
「十育B81号」(H29)
「十育S3号」(H29)
- やまのいも「きたねばり」(H23)
- ながいも「とかち太郎」(H25)



エリモショウズ記念碑

■最近の新技術・試験成果

- 生育履歴情報を利用したマップベース可変施肥技術(H29)
- 超音波式自動操舵システムによる作業特性(H27)
- 青色申告決算書を活用した地域の農業所得の解析手法(H26)
- 仕訳が異なる青色申告決算書に対応した農業所得の解析手法(H28)
- ばれいしょ早期培土栽培の生産安定化技術(H22、H26)
- 直播てんさいにおける安定生産の阻害要因と改善指導法(H27)
- エチレンを用いた加工用馬鈴しょの萌芽抑制による高品質貯蔵技術(H25)
- 秋まき小麦「ゆめちから」の高品質安定栽培法(H27)
- 品種・前作・土壌診断で決まるばれいしょの窒素施肥(H29)
- 小麦の雪腐褐色小粒菌核病および褐色雪腐病に対する殺菌剤の残効性と防除時期(H26)
- てんさいの西部萎黄病の発生生態と媒介虫の越冬抑制による病害低減技術(H28)

豆類グループ

(大豆)

北海道の各地域に適する良質、安定多収な大豆品種の育成を行っています。

育種目標は、①多収性、②加工適性、③ダイズシストセンチュウ抵抗性、④耐冷性、⑤耐湿性、⑥ダイズわい化病抵抗性などで、主な用途は豆腐、煮豆、味噌、納豆用です。



(小豆菜豆)

全道向けの小豆、菜豆(金時、手亡等)の品種育成を行っています。

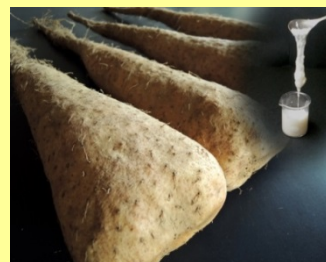
小豆の育種目標は、耐冷性、耐病性、機械化栽培適性を持つ、品質の良い多収品種の育成です。

菜豆の育種目標は、良質・大粒・多収で病気に強い金時や手亡等の品種育成です。また、新規用途としてサラダ等に向けた品種の育成も行っています。

地域技術グループ

(畑作園芸)

十勝の主要な畑作物目である小麦、馬鈴しょ、てん菜の新品種開発や栽培技術に関する試験、やまのいも類などの高収益野菜品目に関する各種試験に取り組んでいます。



(地域支援)

技術普及室の普及指導員と連携し、地域へ新技術を普及するための実証試験や、地域農業技術支援会議を通じた活動により地域農業の技術的課題の解決を図っています。

また、農業改良普及センターの普及活動を技術支援するとともに、農業関係機関や団体と連携して生産現場への技術支援を行っています。

十勝農業試験場技術普及室

道の普及職員が在勤し、農業改良普及センターの活動支援を行い、また地域技術グループ等と連携して技術体系化試験の協力や地域農業の課題解決に向けた技術支援を行っています。

生産システムグループ

(栽培システム)

生産コスト低減、機械化・省力化・高能率化、環境負荷軽減などの視点に立ち、畑作物の播種、施肥、収穫などの栽培システムや高精度支援技術の開発と農業機械に関する試験研究を行っています。

(スマート農業)

農作業の省力化や大規模化に対応した技術提案を目的に、センシング技術を活用した精密農業技術や自動操舵、ロボットトラクタの利活用に関する試験研究に取り組んでいます。



(経営)

新たに開発された農業技術の経済性評価や高収益・低コスト経営の確立に向けた経営管理手法の開発、個々の経営をサポートする地域的な支援体制のあり方に関する研究を行っています。

生産環境グループ

(栽培環境)

十勝の主要作物について、土壌・作物栄養診断に応じた適切な施肥技術の開発や、堆肥など有機物や有機質資材を活用した化学肥料の削減について研究しています。

また、新しい肥料・土壌改良剤の実用化や、環境保全対策、土壌調査等にも取り組んでいます。

(病虫)

十勝で栽培されている主要な畑作物および野菜の重要・難防除病害虫に対して、発生生態や発生状況に応じた、的確で環境にやさしい防除法の開発を行っています。

また、病害虫の発生予察や、病害虫診断、新農薬の効果査定試験などを行っています。

